



森林環境保全基金運営委員会の運営の見直しについて

資料 5

〈現状・課題〉

- 各事業に対する委員からのご意見や評価について、次年度の予算編成に十分に反映できていない。また、開催した県民座談会のご意見等の委員会への報告時期もズレが生じている → 県の予算編成スケジュールに対応した委員会の開催が必要
- 委員一人ひとりに全ての事業の評価を依頼しており、委員への負担が大きい。また様式也多岐にわたり複雑 → 様式の簡素化とあわせて、事業評価のあり方を見直す必要
- 委員会の協議時間の多くを事業実績の評価に費やしており、委員ご提案の課題等を議論する時間が十分に確保できていない → 協議の場を必要に応じて別枠で設ける必要

〈見直しの方向性〉

- 各事業に対する委員からのご意見や評価を当年度事業の執行や次年度予算の編成に有効に生かせるよう、委員会を**第1回は7月、第2回は9月**に開催
- 委員一人ひとりによる全事業の評価から、**各委員に4～5事業の評価をご担当いただく形（1事業を2名の委員で評価）に改めて負担を軽減**。あわせて、事業評価シートの様式を見直し
- 第1回・第2回の委員会を通じて**委員から提案のあった課題や、委員会の運営などについて協議する場としての委員会を必要に応じて随時開催**

〈現行〉

7月	第1回委員会 - 当年度事業・予算の説明 - 前年度事業の実績報告と自己評価の説明・協議	【資料】 - 事業評価シート（前年度最終、当年度当初） - 当年度予算一覧表
【8月】（委員）前年度事業の点数評価作業		
委員一人ひとりに全事業の評価をいただいており、委員の負担が大。また、様式も複雑		
【10～11月上旬】（県）次年度事業の予算要求作業		
予算の要求内容が固まり、委員会の意見を反映させにくい		
11～12月	第2回委員会 - 前年度事業評価のとりまとめ報告 - 次年度事業の<u>予算案</u>の説明・協議	【資料】 - 次年度事業（案）の一覧表、個別説明資料（新規事業など） - 前年度事業の委員評価とりまとめ表
2～3月	第3回委員会 - 当年度事業の中間報告 - 次年度事業の予算説明	【資料】 - 当年度事業評価シート（中間） - 次年度予算一覧表

〈見直し（案）〉

当年度の予算説明を第1回で実施

7月	第1回委員会 - 当年度事業・予算の説明 - 前年度事業の実績報告と自己評価の説明・協議	【資料】 - 当年度予算一覧表、個別説明資料 - 事業評価シート（前年度最終）
委員一人ひとりによる全事業の評価をあらため、委員会の場で評価を返す（指摘、提案等）		
【7～8月】（事務局）委員会の指摘等を整理 → （委員会確認）→ 担当課にフィードバック		
指摘・提案を当年度の事業執行に生かす		
9月	第2回委員会 - 当年度事業の中間報告 - 次年度事業の予算の方向性の説明・協議	【資料】 - 事業評価シート（中間） - 県民座談会の開催結果報告 - 次年度事業一覧表（予算額抜き） - 個別説明資料（新規事業など）
【10月】（事務局）委員会の指摘等を整理 → （委員会確認）→ 担当課にフィードバック		
指摘・提案を次年度の予算編成に生かす		
【11～3月】（県）予算案の策定 → 県議会での審議 → 予算成立		
随時	委員会 ※ 第1回・第2回委員会で委員から提案のあった課題や委員会の運営などについて協議する場として、必要に応じて随時開催	

令和6年度 森林環境税活用事業評価シート（実績）（案）（記載例）

参考資料

①	整理番号	R6-10	所管課	林業環境政策課	担当者	森 真也
	大区分	こうちの森で人づくり事業	小区分	森林環境に対する意識向上のための普及啓発・広報		
	事業名	森林環境学習フェア等開催委託料				

②	事業費	R3(決算額)	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(決算額)	R7(予算額)
	総事業費（千円）	9,462	11,983	11,821	12,552	10,782
	財源内訳	森林環境税	11,983	11,821	12,552	10,782
		その他				

③	事業概要
	森林環境学習に関するフェアと森林保全体験バスツアーの開催

④	事業目的
	森林の持つ多面的機能や森林環境保全の重要性への理解を深めるとともに、木材利用や森林への関心を高め、森林保全活動に積極的に関わっていただくきっかけとなることを目的として、森林環境学習フェアと森林保全体験バスツアーを開催する。

⑤	事業内容・実施方法など
	1 委託先の決定：企画提案書を事業者提出させ選定（プロポーザル方式）し、委託契約を締結 2 開催内容の決定：森林環境学習フェアは、県、関係団体などで組織するフェア実行委員会を月1回程度開催し、プロポーザルの提案をもとに開催内容の詳細を協議のうえ決定。 3 開催日程・内容 （1）森林環境学習フェア ○開催日程・場所 ・令和6年10月26日（土）、27日（日）の2日間、高知市中央公園、帯屋町アーケードで開催 ○会場全体 ・「みんなで学ぼう 木あそび楽校（がっこう）」をテーマとし、会場全体を学校に見立て、「学ぶ教室」、「体験教室」、「暮らし教室」の3つのエリアごとにテーマ性を持たせ、学べる内容や体験できる内容がわかるような会場構成とする。 ○森林環境学習ブース（6～12小間） ・来場者が森林環境を学べる場として、森林や環境に係るワークショップや木工体験を行うブースを設置。 ・森林の果たす役割や森林環境税の活用事例、森林保全ボランティアの活動内容を紹介するパネル展示を行う。 ○ステージイベント・出展ブース ・森の検定 ・森林環境保全をテーマにしたヒーローショー ・林業大学校によるチェーンソーレーニング実演、チェーンソーVR体験 ・薪割り、丸太切り体験 ・薪を利用したピザ焼き体験 （2）森林保全体験バスツアー ○森林や林業現場を実際に見て触れて体験していただく、バスツアーを実施。 ・開催時期：11月（親子対象）、3月（高校生以上）の年2回 ・実施場所：土佐町 ・実施内容：森林環境学習、薪割体験、木工体験、林業体験（間伐体験など）

⑥	成果指標・達成状況	R3	R4	R5	R6	R7
	学習フェア来場者数	目標値 18,000人	18,000人	18,000人	18,000人	
		実績値 5,000人	6,398人	11,212人	6,388人	
	バスツアー参加者数	目標値 100人	100人	100人	100人	
		実績値 0人(中止)	68人	81人	86人	

⑥	成果
	【中間】 ・中間評価時に記載 【最終】 ・学習フェアの来場者は2日間で6,388人と目標を大きく下回った。特に、雨天の影響で土曜日の来場者数が少なかった。 ・林業大学校のチェーンソーレーニングの実演や、チェーンソーVR体験など、林業を身近に感じる企画が実施できた。 ・森林環境保全バスツアーでは、林業に携わる地域おこし協力隊が講師となり、薪割体験、チェーンソー体験（高校生以上）、木工体験（中学生以下）を実施した。（林内での間伐体験は、雨天の影響で中止となった）

⑦	自己評価	左の理由・次年度に向けた課題
	☐ 評価できる ☐ 概ね評価できる ☒ あまり評価できない ☐ 評価できない	【理由】 ・来場者数が目標を大きく下回ったため 【課題】 ・学習フェアの来場者数の確保

⑧	次年度の方向性（課題に対する対応など）
	・学習フェアについて、ステージイベントの充実、広報物デザインの改善など、目標来場者数を確保できる内容となるよう、企画を練り上げていく必要がある。 ・また、目標来場者数について、県が中央公園で実施している他のイベントの来場者数と比較すると過大となっていることから、目標数値を引き下げ、一日あたり6,000人、二日間計12,000人をR7の目標としたい。 ・森林保全バスツアーについては事業コスト（約200万円）に対して参加者数が限られていることや、他事業と内容が重複することから、R7より廃止とした。

⑨	森林環境保全基金運営委員会からの意見（次年度の事業の進め方など） （第1回委員会開催後に記載）

令和7年度 森林環境税活用事業評価シート（中間）（案）（記載例）

参考資料

①	整理番号	R7-10	所管課	林業環境政策課	担当者	森 真也
	大区分	こうちの森でづくり事業	小区分	森林環境に対する意識向上のための普及啓発・広報		
	事業名	森林環境学習フェア等開催委託料				

②	事業費	R4(決算額)	R5(決算額)	R6(決算額)	R7(予算額)	R8(予算額)
	総事業費(千円)	11,983	11,821	12,552	10,782	0
	財源内訳	森林環境税	11,983	11,821	10,782	
		その他				

③	事業概要
	森林環境学習に関するフェアの開催

④	事業目的
	森林の持つ多面的機能や森林環境保全の重要性への理解を深めるとともに、木材利用や森林への関心を高め、森林保全活動に積極的に関わっていただくきっかけになることを目的として、森林環境学習フェアを開催する。

⑤	事業内容・実施方法など
	1 委託先の決定：企画提案書を事業者提出させ選定（プロポーザル方式）し、委託契約を締結 2 開催内容の決定：森林環境学習フェアは、県、関係団体などで組織するフェア実行委員会を月1回程度開催し、プロポーザルの提案をもとに開催内容の詳細を協議のうえ決定。 3 開催日程・内容 ○開催日程・場所 ・令和7年11月1日（土）、2日（日）の2日間、高知市中央公園、帯屋町アーケードで開催 ○会場全体 ・「みんなで学ぼう 木あそび楽校（がっこう）」をテーマとし、会場全体を学校に見立て、「学ぶ教室」、「体験教室」、「暮らし教室」の3つのエリアごとにテーマ性を持たせ、学べる内容や体験できる内容がわかるような会場構成とする。 ○森林環境学習ブース（6～12小間） ・来場者が森林環境を学べる場として、森林や環境に係るワークショップや木工体験を行うブースを設置。 ・森林の果たす役割や森林環境税の活用事例、森林保全ボランティアの活動内容を紹介するパネル展示を行う。 ○ステージイベント・出展ブース ・森の検定 ・森林環境保全をテーマにしたヒーローショー ・林業大学校によるチェーンソートレーニング実演、チェーンソーVR体験 ・薪割り、丸太切り体験 ・薪を利用したピザ焼き体験

⑥	成果指標・達成状況	R4	R5	R6	R7	R8
	学習フェア来場者数	目標値	18,000人	18,000人	18,000人	12,000人
		中間値(8/31時点)			(未実施)	
		実績値	6,398人	11,212人	6,388人	
		目標値				
		中間値(8/31時点)				
		実績値				

	進捗状況・成果
	【中間（8/31時点）】
	・プロポーザルで選定された委託事業者と〇月〇日に委託契約を締結し、学習フェアの開催に向けて準備を進めている。
	・ステージイベントでは〇〇や〇〇を実施予定。
	・出展ブースでは〇〇や〇〇を実施予定。

⑦	次年度に向けた課題
	・R3以降来場者数の目標を達成できていない状況が続いている。

⑧	次年度の方向性（課題に対する対応など）
	・プロポーザルの要件や評価基準を見直し、〇〇とする。
	・〇〇を活用した広報を実施する。

⑨	森林環境保全基金運営委員会からの意見 (第2回委員会開催後に記載)